

CON-TECH

ひょうご

8号

May.2000

事業レポート

コミュニケーション型県土づくり

住民がつくる段階から参加し まもり、そだてる道づくり

(財)兵庫県建設技術センター
平成12年度事業計画

Close up!
阪神事業所の業務から



西宮市が自治会との協議を重ね、環境や安全性・景観に配慮し完成した山手幹線(西宮市寿町)

CON-TECHひょうご

CON-TECHひょうご 第8号 2000年(平成12年)5月29日発行(年3回発行) 第3巻第2号 通巻8号
発行人/財団法人兵庫県建設技術センター TEL:078-272-4200 FAX:078-272-4207
編集協力/神戸新聞総合出版センター

建設技術知識



8

「やさしい基礎杭(前編)」

土木構造物の基礎の形式は、直接地盤に設置するもの、ケーソン基礎、杭基礎、鋼管矢板基礎に分けることができます。そのうち、直接基礎を除くと最も使用頻度の高い杭工について、みていきましょう。

Q.杭にはどんなものがありますか?

A.杭は、次のように分類できます。

- 支持機構別 ~支持杭、摩擦杭、その他
- 材 料 別 ~木杭、既製コンクリート杭(鉄筋コンクリート、プレストレストコンクリート、高強度コンクリート)
場所打コンクリート杭、鋼杭(鋼管、H鋼)
- 施工方法別 ~打込み杭工法、埋込み杭工法(中堀、プレボーリング他)、場所打ち杭工法

Q.建設省積算基準の基礎工の章で記されている、工法について教えてください。

A.下の表を参考にしてください。又、建設物価調査会発行の「土木施工の実際と解説」も参考となります。

種 別	施工方法	特 徴	注意点
鋼管・既製コンクリート杭打ち工 (バイルハンマ工)	既製杭の杭の頭部をハンマで打撃し、杭を地中へ打ち込む。	・打込み杭 ・杭工法のうちで実績が多い。 ・施工時に支持力が確認できる。 ・工期が短い。・施工費が安い。	騒音、振動が発生するため、公害問題から使用できる場所が限られる。
鋼管・既製コンクリート杭打ち工 (プレボーリング・中堀工)	プレボーリング)あらかじめアースオーガなどで削孔し、そこに杭を設置した後、杭頭を打撃し支持層に貫入させる工法。 中堀工)杭の中空部に挿入したアースオーガによって、杭の先端部の地盤を掘削排出し、杭の自重を利用した圧入装置により沈設する。最後の処理として、打撃貫入、セメントミルク噴出攪拌、コンクリート打設の3通りがある。	・埋込み杭 ・最終打撃方法以外は、低騒音、低振動	・3点支持式杭打機は、大きな機械であるため、十分な施工ヤード(上空障害も含め)が必要。 ・杭内径の1/5程度以上のれき径があると掘削が困難。
場所打杭工 (オールケーシング工・硬質地盤用オールケーシング工)	杭全長に鋼製のケーシングチューブを押し込みながらハンマグラブで掘削排土し、その後、鉄筋かごを設置し、ケーシングチューブを引き抜きながらコンクリートを打設する。	・多くの土質に対応できる。 ・孔壁の崩壊防止が確実である。 ・10m程度の上空障害であれば施工可能。	ハンマグラブとケーシングチューブとの接合部や、ハンマグラブを自由落下させ掘削する際に騒音、振動がある。
場所打杭工 (リバースサーキュレーション工)	スタンドパイプを建て込み、それより深いところは、スタンドパイプの水位を地下水位より2m以上高く保ち、水圧により孔壁の崩壊を防ぎながら、掘削ビットにより掘削をする。その後、鉄筋かごを設置しコンクリートを打設する。	・水上でも施工可能。 ・上空制限が小さい。 ・ケーシングパイプによる孔壁保護の必要がないため、60m以上の掘削が可能。 ・低騒音、低振動	大きなれきや玉石などの掘削は困難。
場所打杭工 (アースオーガ工・硬質地盤用アースオーガ工)	バケットに掘削土砂を収納し地上に排出し、その後、モルタルを注入し鉄筋かご又はH鋼を建て込む。孔壁面の保護は、表層3m程度は、ケーシングチューブを設置し、それ以後は必要に応じ安定液を用いる。	・地下水のない粘性土で最適 ・低騒音、低振動	・地下水のない粘性土では、安定液を用いる場合がある。 ・十分な施工ヤード(上空障害も含め)が必要。
場所打杭工 (大口径ボーリングマシン工)	トリコンビット等で削孔する。その後、鋼管等を建て込み、モルタル等を打設する。孔壁面の保護は、安定液を用いる。	・小さな機械であるため、傾斜地や狭い箇所でも使用できる。 ・いろんな土質に対応できる。 ・上空制限が小さい。低騒音、低振動	・φ600まで
場所打杭工 (ダウンザホールハンマ工)	ダウンザホールハンマを併用しながらビットで掘削していく。その後、鋼管等を建て込み、モルタル等を打設する。孔壁が不安定な場合や、地下水がある場合は、補助工法が必要である。	・小さな機械であるため、傾斜地や狭い箇所でも使用できる。 ・いろんな土質に対応できる。 ・上空制限が小さい。 ・スピーディー ・泥水(安定液)を使用しない。	・φ600まで ・騒音・振動が大きい。 ・積算基準で記載されているものは大口径ボーリングマシンを使用しているが、その他に、ベアスマシンが別の機種があり、混同しやすい。 ・積算する際、ビット等は、見積を取る必要があるがメーカー格差が大きい。
深礎工	ライナープレートなどにより、孔壁の土留めをしながら、中の土を人力及び機械で掘削、排土する。その後、鉄筋かごを組立て、コンクリートを打設する。	・場所杭工。狭い箇所、傾斜地での施工が可能。 ・いろんな土質に対応できる。 ・低騒音、低振動	軟弱地盤や地下水位が高い場合、施工は困難。有毒ガスの噴出や、酸素の欠乏などおそれのある地盤では施工が困難。

以上、一般的な特徴について紹介していましたが、次号では、施工方法に焦点を当て、歩掛に記載されているもの以外についても紹介していく予定です。

前号の本コーナーで、懸賞付きのクロスワードパズルを掲載したところ、多数のご応募をいただき、ありがとうございました。 答え「ユメハッチ」

CTC 財団法人兵庫県建設技術センター
Hyogo Construction Technology Center

〒651-0085 神戸市中央区八幡通3-2-5 (IN東洋ビル4F)
TEL:078-272-4200 FAX:078-272-4207

阪神事業所 〒662-0857 西宮市中前田町1-25 TEL.0798-34-2275 FAX.0798-34-2285
播磨事業所 〒670-0962 姫路市南駅前町124 TEL.0792-81-3377 FAX.0792-81-3388
但馬事業所 〒668-0055 豊岡市昭和町2-56 TEL.0796-29-3031 FAX.0796-29-3073
丹波事業所 〒669-3309 氷上郡柏原町柏原1521 TEL.0795-73-3750 FAX.0795-73-3660
淡路事業所 〒656-0022 洲本市海岸通1-11-1 TEL.0799-25-5150 FAX.0799-25-5170

兵庫県建設技術センターの今後への抱負



財団法人 兵庫県建設技術センター
理事長 前田 増夫

新たな世紀の幕明けを目前にして、社会の枠組みや規範はグローバルな規模で転換期を迎えています。成長を追い求めてきたこれまでの社会は、環境、共生、心の豊かさなどをキーワードとする成熟社会へと、既に移行し始めているところです。兵庫県建設技術センターにおいても、設立目的を十分念頭に置き、「たくましい技術者を求めて」「新しい技術開発を求めて」「安全な地域社会を求めて」を3本柱として、時代の変化に対応した良質な社会資本の蓄積に全力をあげて取り組んでまいりたいと考えています。

さて、建設行政を巡っては、多様化したニーズや高齢社会への対応、住民とのコミュニケーションなど、社会資本整備の目標や進め方に関わる課題が山積しています。このため、土木技術者には、事業の必要性を総合的に評価した上で効率的・効果的に実施すると同時に、それを分かりやすく説明し、県民の方々の理解と協力を得ていくコーディネーターとしての役割も期待されています。

このように複雑化する行政課題への確に対応するため、県や市・町の各自治体では行財政構造改革をいま推進中ですが、技術的な分野で行政を支援する機関として当センターの果たすべき役割と責任はますます大きくなつていくものと認識しています。

当センターに出捐いただいた皆様のニーズにきめ細かく対応していけるよう、業務内容を充実していくとともに、二層の技術力向上に努めてまいりますので、今後とも当センターをまもりそだて、活用いただきますようお願い申し上げます。

兵庫県建設技術センターを振り返って



財団法人 兵庫県建設技術センター
前理事長 齋藤 博

私は、この三月をもちまして理事長を退任いたしました。在任中、研修や設計積算・工事監理業務等の委託等に、建設技術センターをご活用いただき誠にありがとうございました。着実に業務の成果を上げることができましたことは、ひとえに皆様からのご指導の賜と感謝いたしております。

さて、わが国では戦後の短期間に整備された社会資本がもたなく耐用年数を迎え、維持管理費用や更新費用が急激に増加していくと言われております。このため、今後の整備にあたっては、ライフサイクルコストの観点で合理的に計画・設計するとともに、耐久性に優れた品質の高い施工をしていくことが重要となつてきます。とりわけ、コンクリート構造物の劣化や施工不良など最近の事例を見ると、品質を確保していく上で、今一度、基本的な技術を再確認し習熟すること、更には高度化する建設技術に対応できる技術者の育成も重要ではないかと思われまふ。

建設技術センターでは、分野別専門研修の充実を図るとともに、受託した業務を的確に実施していくため、職場研修などによりセンター職員の技術力向上に努めてまいりましたが、皆様におかれましても、安全で豊かな暮らしを支える専門家としての誇りと倫理感を基礎に、技術資格の取得などの目標を定めつつ、幅広い技術力の修得に努められることを期待しています。

最後になりましたが、県内のそれぞれの地域がますます発展されますことを祈念し、お礼のご挨拶といたします。

コミュニケーション型県土づくり 住民がつくる段階から参加し まもり、そだてる道づくり

西宮市（兵庫県西宮土木事務所管内）



今、道路をはじめ社会資本整備を取り巻く環境は大きく変化しています。人々の価値観が多様化し、整備の質への要求水準も上がっています。同時に、つくったものを大切にまもり、そだてるためには、地域住民の自発的な協力が欠かせない時代となっています。このため、住民との合意をどのように形成していくかの模索や、住民参加による計画づくりの試みが始められています。そこで、西宮市内の街路整備、山手幹線と建石線に、そうした新しい道づくりの取り組みを訪ねました。

完成を祝い地元住民が中心になって「人と街と路のまつり」を開催。参加者はフリーマーケットやパレードを楽しんだ（神戸新聞社提供）

震災復興のシンボルロード 「山手幹線」を人と人との ふれあいを大切に整備

道路は人や車が通る交通路としての役割のほか、人と人とのふれあうコミュニケーション空間としての役割があります。また、ライフラインを収容するとともに、災害時には防災空間として避難路や防火帯となるなどさまざまな役割を担っています。

山手幹線は、神戸市、芦屋市、西宮市、尼崎市を東西に結ぶ幹線道路として都市計画決定され、各市ごとに整備が進められてきました。しかし、住宅地の中に新設する道路であるため、環境への影響などの問題から、全線約29.6 kmのうち約5.1 kmが未整備でした。

このうち、西宮市寿町と分銅町一帯では、阪神・淡路大震災で家屋の七割以上が全半壊する大きな被害を受けました。西宮市は、山手幹線を震災復興路線に位置づけ、全線開通に向け本格的な整備を開始し、平成8年11月、市と寿町、分銅町などの地元住民とで工事着手のための協議が持たれましたが、整備後の環境などを心配する住民から、事業実施に反対する声がありました。

寿町自治会では、市の事業説明や整備案に対し、地元が納得できる整備内容をとりまとめようと、各街区ごとに選出された約15名の住民で小委員会を設置。自ら調査・検討を重ね、自治会総会での了承を得た上で、自治会整備案を市に提出しました。

Topics

「淡路交流の翼港」の供用開始

淡路花博「ジャパンフローラ2000」の海の玄関口である「淡路交流の翼港」の開港式が、去る3月4日、多くの関係者が出席するなかで挙行されました。

この港は、潮流や海浜部の保全と水生動植物に配慮した沖出し式で、平面形状は潮流に対する抵抗が少なく、周辺海域に影響を及ぼしにくい流線型となっています。

当センターは、平成9年度より基礎工、ケーソン製作・設置、護岸上部、橋梁、緑地などの積算および工事監理業務を兵庫県洲本土木事務所より受託してきました。

現在、花博会場へのアクセスルートの一つとして、神戸中突堤と



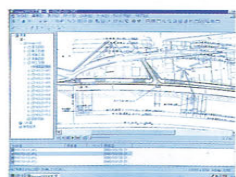
を結ぶ高速艇が週末などに運行されるとともに、明石海峡をクルージングする遊覧船「日本丸」の発着点となるなど、多くの方に利用されています。

災害復旧事業の関連書類を電子化

兵庫県尼崎港管理事務所では、書類の紛失や劣化の防止と省スペース化を実現するため、震災復旧事業にかかる書類の電子化に取り組んでいましたが、この度、河川関係について完了しました。

当センターでは、平成10年度より書類の分類から電子化までを一連して同事務所より受託してきました。

電子化の対象は、設計書・図面・工事写真などで、各工事ごとにツリー構造で電子情報を光磁気ディスクに保存しています。また、光磁気ディスクが複数枚になることから、工事ごとに工事概要と竣工写真を記載した共通様式を作成し、パソコン上で該当の書類が



保存されているディスク番号を検索できるようにしています。

電子データの閲覧や印刷は、一般のパソコンと画像処理ソフトで行い、部分的に拡大表示したり、用紙サイズを変更して印刷したり、幅広い利用が可能です。

播但連絡道路が全線開通

兵庫県道路公社が播但連絡道路の5期事業区間として平成6年度に着工した生野～和田山間17.2kmが、5月27日に供用開始されました。

これにより、姫路と和田山を約1時間で結ぶ総延長65kmの播但連絡道路が全通し、名実共に播磨圏域と但馬圏域が高速道路で結ばれました。

さらに、同公社では、この供用にあわせ、本線料金所2箇所の撤去、日本道路公団などに採用されている対距離料金制への変更など、料金システムを改善しました。また、休憩施設の新設（朝来、和田山）や拡張（市川）などにより、利便性の向上を図っています。

なお、当センターは平成8年度より、トンネルや長大橋の積算や3つの工区の工事監理業務を受託し、この大プロジェクトに参画してきました。



ワークショップを前に、「まちかど広場」予定地の大きさや周辺の状況を観察した

は住民の意向に細やかな対応が可能となり、一方、住民は満足度や参加意欲がアップします。このことが計画をよりよいものに高めるのです。

検討会が、地元のまちづくり協議会と自治会が募った有志に「地域プランナー」が加わって、平成11年10月から開始されました。



ワークショップでは、3つのグループに分かれ「まちかど広場」の使い方や維持管理について意見を出し合った

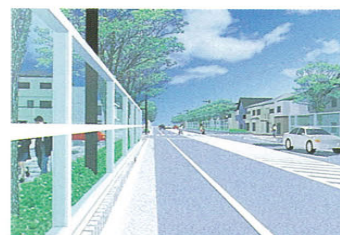


井上隆夫 兵庫県西宮土木事務所長

れぞれ地元に住む人ならではの提案です。これをもとに「地域プランナー」は模型に仕上げたりしながら、活発な討議をサポートしました。

「花壇づくりで工事に参加したいという声があるなど、つくる段階からすでに自分たちの公園との意識を持ってもらえたようです。まだまだ課題は多いですが、今回の『地域プランナー』を介した対話手法は、住民と行政の意識のギャップを埋める一つの確かな手法と思われまう」と、井上隆夫兵庫県西宮土木事務所長。

県は、この提案を大いに活用し、平成12年度から広場の整備にとりかかる予定で



完成後の具体的なイメージを視覚的にわかりやすく伝えるCG画像

それからも、市と小委員会は、工事の進め方や街路樹の樹種の選定などの細部に至るまで幾度も協議を重ね、平成10年5月から工事が始められました。

県と地元市は「人と人とのふれあう路づくり」をめざして、「山手ふれあいロード構想」を推進しています。身近な公共スペースである道路を地域住民のふれあいや防災機能の向上、防災意識の啓発を図る場として生かしていこうとするものです。「山手幹線では、地域の皆様と行政が協力し、知恵を出し合ったことで、多くの人に親しまれる路づくりができ、大変うれしく思っています。また、この経験は、必ずこれからの街づくりにも生かされていくものと確信しています」と、馬場順三西宮市長は手応えを語ります。

遮音壁を設置すること、ポケットパークや防災用の井戸を設けることなど、住民の要望を盛り込んだ最終的な整備案を作成。平成10年1月の寿町自治会臨時総会で了承され、工事着手の合意が得られました。



日常の散水や災害時の非常給水に役立つ井戸



地域のふれあいと交流の場となるポケットパーク

山手幹線の供用を前に住民の企画でふれあいイベントを開催



馬場順三 西宮市長

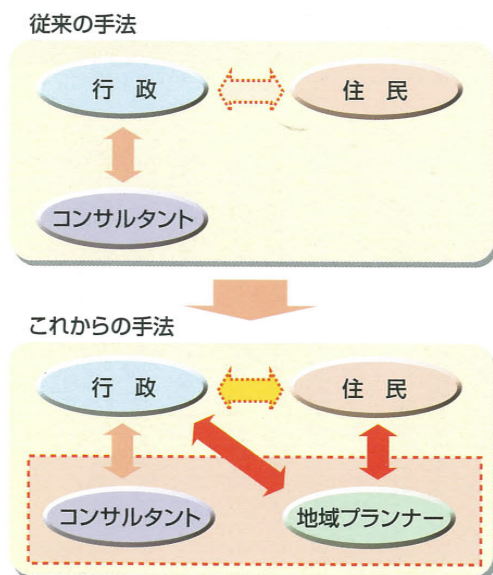
整備やその管理方法などが決められてきました。また、市はコンピュータグラフィックスを用いて完成後の道路の具体的なイメージを示し、住民に計画内容を視覚的にわかりやすく伝え、事業に対する理解を深めてもらえるような工夫も行いました。こうして、平成11年9月1日に西宮市寿町工区と分銅町工区の計700mが完成し、供用が開始されました。

開通に先立つ平成11年8月28日、完成した路上で住民主催の「人と街と路のまつり」が開催されました。震災を契機に、安全で安心して住める街と路を地域住民と行政の知恵と努力で作っていくという新しい取り組みを多くのの人に知ってもらおうと、寿町の自治会が中心となって企画したものです。約120人の地域住民が、率先してまつりの運営にあたったことをみても、「路づくり」に主体的にかかわってきた住民の喜びと充実感が伝わってきます。晴天に恵まれた当日は、市内外から家族連れなど1万人を超える人たちが集まり、道路を舞台に繰り広げられるパレードやフリーマーケット、スタンプラリーなどの催しを楽しみました。

山手幹線の寿町工区と分銅町工区での経験は、計画段階から住民と行政が対話を重ねていくことの大切さを実証しました。兵庫県では、「つくる（計画）」段階から住民が参加することによって芽生える公共土木施設への愛着のもと、「まもり、そだてる」までを住民が自らの手で実施する「コミュニティ型県土づくりモデル事業」を平成11年度から推進していますが、その一環として建石線をモデル路線に、住民との対話の新しい手法を試行しています。それは、行政と住民の間にまちづくりの専門家「地域プランナー」を置き、住民の立場に立つて行政との橋渡しをしてもらうものです。「地域プランナー」が住民の意見をじっくり聞いたり、行政の考え方をわかりやすく通訳することで、行政



行政PRコーナーでまちづくり博士のみち講座にとりくむ子どもたち



地域プランナーを活用し住民がつくりあげた「まちかど広場」整備計画

山手幹線の寿町工区と分銅町工区での経験は、計画段階から住民と行政が対話を重ねていくことの大切さを実証しました。

兵庫県では、「つくる（計画）」段階から住民が参加することによって芽生える公共土木施設への愛着のもと、「まもり、そだてる」までを住民が自らの手で実施する「コミュニティ型県土づくりモデル事業」を平成11年度から推進していますが、その一環として建石線をモデル路線に、住民との対話の新しい手法を試行しています。

それは、行政と住民の間にまちづくりの専門家「地域プランナー」を置き、住民の立場に立つて行政との橋渡しをしてもらうものです。「地域プランナー」が住民の意見をじっくり聞いたり、行政の考え方をわかりやすく通訳することで、行政

研修会参加者レポート



市町建設事業担当職員 中堅研修に参加して

明石市土木部海岸治水課
福田 成男

昨今、コンクリート構造物の施工不良をはじめ公共事業不要論など、建設行政に対する社会的批判には厳しいものがあり、このような状況の下で、今回の研修は、コスト削減への取り組みや事業評価システムの導入といった、今緊急に取り組まなければならない課題、さらに、構造物設計のポイントやコンクリートの施工技術など、技術者として当然身につけていなければならないことが、カリキュラムに組み込まれていたのは誠に、時宜を得たものであったと思います。

特に、「建設行政を巡る最近の話題」では、今、問題となっている吉野川第十堰について、技術者として何をしなければならないのかを考えさせられました。

「アカウンタビリティ」と言われますが、これからの技術者は、何を創るだけでなく、何のために、どのように創るかということにこだわらなければならないと感じました。



土木職中級職員研修に 参加して

兵庫県豊岡土木事務所工務第2課
山本 良太郎

現在、河川・砂防・急傾斜の工事を担当しています。今回の研修では、「構造物設計のポイント」が主体の研修であると感じていたので、日頃の業務に役立つ内容であれば期待して参加しました。

講習では私自身もよく利用する擁壁工の設計手順に関して形式選定から安定計算、断面設計まで、また「設計・施工合理化」による構造の単純化等の内容も盛り込まれており、実務で役立つ有意義な研修内容でした。ちょうど、逆T式擁壁を施工している現場もあり、帰ってから思わずコンサルの設計報告書を開いて「ほっ」(?)としたことをおぼえています。

普段は知らず知らず設計コンサルタントに任せてしまいがちですが、この研修で得た知識を生かして技術力を向上させていきたいと考えています。



舗装に関する 技術講習会に参加して

村岡町建設課
石井 勇

今回参加した研修は、アスファルト舗装技術に関する内容で、現場技術者にとっては基礎的なものであったと思いますが、私自身30才を過ぎてから技術職場に配置されたことと、このような技術研修は初めてであったこともあり、新鮮で大変有意義な研修でした。

発注者側と請負者側はお互いに、より良いものを作ろうという想いは共通しているという考えから、特に確認もせずに流していたことがありますが、多忙な日常業務の中で、管理面では両者共そこまで手が回らないという実体があるのではないのでしょうか。共通認識とはいいながら、発注者側には請負者側に指示、協議できるだけの技量そして緊張感も大切であり、今までの私はある意味での甘えがあったように思います。

今回の研修をひとつの契機とし、今後いろいろな機会を利用して、現場で活用できる技術と考え方を身につけていきたいと思っています。



阪神事業所の業務から 一地域の多様なニーズにお応えします

兵庫県建設技術センターの阪神事業所は、JR西ノ宮駅より北西に約1km、山手幹線沿いのビルの5階にあります。男性5名と女性1名の小ぢんまりとした事務所ですが、パソコンや技術にうるさい個性的な職員がそろっていますので、是非一度お立ち寄り下さい。

当事業所は、阪神・北摂地域を中心に、設計・積算及び工事監理業務を受託しています。



現在行っている主要な事業に、(仮称)南芦屋浜・深江浜連絡橋があります。この事業は阪神・淡路大震災の教訓を生かし、埋立地に複数の連絡橋を設けることで埋立地の孤立化を防止し、緊急活動にも対応できるようにしようとするものです。幅240mの航路を渡る橋梁部は、阪神高速道路湾岸線に平行近接して全長約1000mあり、このうち当事業所では3径間連続鋼床版箱桁の上部工の積算や、海上部のケーソン基礎の積算及び工事監理などを受託しています。

海面下約30mまで沈下掘削するこのケーソン基礎の特徴は、潜内掘削時の気圧が非常に高く作業効率が極端に悪くなる海面下19m(2気圧)以深において、遠隔操作による無人化工法を採用していることです。工事の安全性向上と、効率的な施工によるコスト削減を目的としています。

また、計測値をリアルタイムで施工にフィードバックしており、これら高度な技術を駆使した工事の監理を担当させていただく中で得られる数々の経験と技術力を、センターに蓄積していきたいと考えています。

そのほかにも、武庫川河川敷公園内の環境や親水に配慮した低水護岸工、住宅密集地内の地すべり事業、新設高校の造成事業など、

発注者のニーズに基づいた幅広い分野での積算や工事監理を行っています。

今後とも技術力を高め、多様なニーズに応えていけるよう努力してまいりますので、当センターの更なる活用をお願いいたします。



環境や親水性に配慮し改修された武庫川

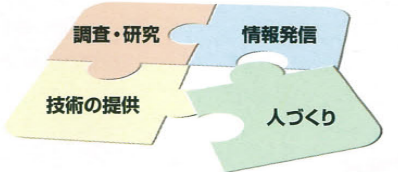
(財)兵庫県建設技術センター 平成12年度事業計画

今日、公共事業に携わる技術者に課せられた使命と役割は極めて大きなものがあり、一層の知識や技術の涵養・研鑽が求められています。

また、兵庫県が策定した「行財政構造改革推進方策」の中で、当センターについては、設計・積算・工事監理業務等の委託拡大などにより積極的な活用を図ることが期待されています。

これらの社会的要請に応えるため、(財)兵庫県建設技術センターでは、県・市町との連携のもとに、「たくましい技術者を求めて」「新しい技術開発を求めて」「安全で快適な地域社会を求めて」を三本の柱として、より一層事業内容の充実に努めます。

研修会への参加や建設技術に関する相談など、
気軽に当センターをご利用ください。



たくましい技術者を求めて

●行政の技術力の向上を求めて

県・市町の建設技術職員の資力の向上や技術力の涵養を図るため、階層別技術研修や専門分野別技術研修および現場研修を実施します。とりわけ、平成12年度では、二つの高い専門分野別技術研修を更に充実させることとし、技術講習会を5つのテーマに拡充します。

また、土木事務所などが主催する研修会に要請を受け、講師の派遣等を支援します。

- ＜平成12年度開催予定研修＞
- ＝階層別研修＝
 - 県土木職採用職員研修
 - 県土木職フォローアップ研修
 - 県土木職中級職員研修
 - 県土木職中級職員(主任)研修
 - 県土木職5級職員研修
 - 市町職員新任研修
 - 市町職員中堅研修
 - 市町部・課長研修
 - ＝専門分野別研修＝
 - 技術講習会(舗装、PC橋、鋼橋、地盤調査、道路計画)
 - ＝現場研修＝
 - 県外現場研修
 - 県内現場研修

●民間の技術力の向上をめざして

建設技術および公共工事の契約に係る図書、発行・販売を通じて、民間技術者の資力の向上を図ります。平成12年度は、新たに小型構造物標準図集の発行・販売を予定しています。

また、(財)全国建設研修センターが主催する「2級土木施工管理技術研修」に、センター職員を講師に派遣し、民間技術者の資格取得を支援します。

●センターの技術力の向上をめざして

(財)全国建設研修センターなどが主催する研修会にセンター職員を参加させ、これらの報告会を実施することにより、センター職員全体の資力の向上を図ります。

また、業務上課題となるテーマについて研究する職員の自主サークル活動を支援するとともに、業務に関連する資格の取得を奨励し、講習会等に派遣します。

新しい技術開発を求めて

●産学官一体の技術開発をめざして

建設技術に関する諸問題に対して、大学をはじめ各界の識者に依頼している技術顧問から提言を受けます。

また、建設技術に関する疑問や悩みを気軽に相談いただき、原則無料で、適切な助言を行うべくアドバイス制度を充実させます。県や市町が実施する土木行政に係る研究会などを受託し支援します。

●新しい技術情報の収集と提供をめざして

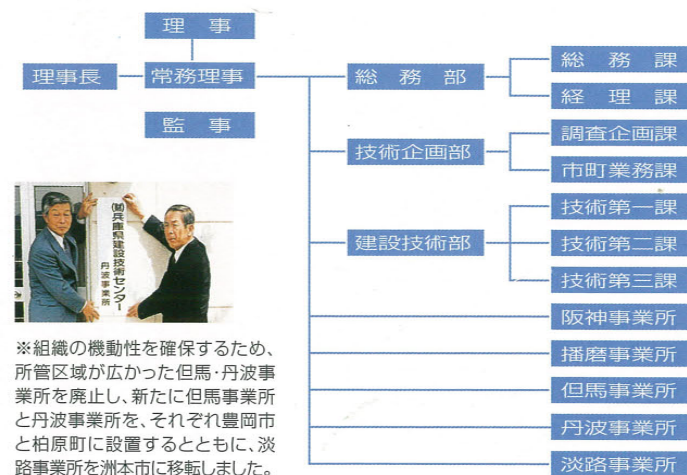
新工法、新技術に関する計画書、報告書、パンフレット、専門書、国際化に対応する文献など各種建設技術情報を収集します。

また、県・市町に対する業務支援の充実と事務の効率化を図るため、統合情報管理ネットワークシステムの構築に向け一部整備を開始し、インターネットをはじめとする情報通信技術を活用して、各種情報の提供を行います。



河川改修にともなう市川瀬下堰下部工工事の現場監理業務を受託(市川工事現場にて)

(財)兵庫県建設技術センターの組織



※組織の機動性を確保するため、所管区域が広がった但馬・丹波事業所を廃止し、新たに但馬事業所と丹波事業所を、それぞれ豊岡市と柏原町に設置するとともに、淡路事業所を洲本市に移転しました。

安全で快適な地域社会を求めて

●良質な社会資本整備をめざして

県が実施する公共土木工事の設計・積算・工事監理業務を受託し、支援します。市町事業については、市町が必要とする技術支援内容に応えながら、委託業務を拡大していきます。

また、市町等の積算業務の省力化を図るため、各積算システムに適合する形式で引き続き積算基準データを提供します。

●安全な地域社会をめざして

兵庫県防災エキスパート登録制度の事務局として、県・市町のOBの方々の登録を受け付けるとともに、活動のための資料提供や研修会の開催などの支援を行います。